



ムカシの競馬を読む



すだ たかお
須田 鷹雄

1970年東京生まれ。競馬ライター。サラブレッド、大阪日刊スポーツなど各種媒体に寄稿中。

第129回 10年・20年・30年前の5月

いまから10年前、平成18年の5月というと、メイショウサムソンが日本ダービーで二冠制覇を成し遂げた月である。一方、海外ではこんな歴史的勝利も実現していた。平成18年5月15日付のスポー

ツ報知から引用しよう。「北の怪物が、海外で大仕事をやってのけた。ホッカイドウ競馬所属のコスモバルク(牡5歳、北海道・田部厩舎)は14日、シンガポールの克蘭ジ競馬場で行われたシンガポール航空国際C・国際G1、芝2000m、13頭立て(一見事に優勝。異国の地で悲願のG1制覇を果たした。3月のドバイシーマクラシックを制したハーツクライに続く海外G1勝利。地方所属馬としては初めての快挙だった」

この日のことは筆者もよく覚えている。グリーンチャンネルの中継はなく、シンガポールはインターネットによるライブ配信もない(レ

ス後30分くらいして動画が上がる。それでもどこからともなく「勝つたらしい」という噂がネット上で流れはじめ、最終的にはレーシングポストの公式サイトでFast Resultを見て確認できた。コスモバルクは翌年もこのレースに参加して2着。その際の勝ち馬はシャドウゲイト。とにかくG1を勝ちたい中距離馬にとってはちょうどよいレースだったのに、レース自体が廃止になってしまったのは残念な限りである。

さて、このコスモバルク、勝ったあとにトラブルに見舞われる。18日付のスポニチから引用しよう。「14日のシンガポール航空国際Cを勝ったコスモバルクがレース出走に伴う血液検査の結果、伝染病の陽性反応を示し、24日に出る第2次検査の結果を待つために出国を

足止めされていることが17日、明らかになった。同馬はきょう18日に帰国し、宝塚記念を目指す予定だった

た

陽性が疑われたのはウマヒロップラズマ病という病気で、日本では発生していなかったので不可解な話であった。検体をイギリスに送って第2次検査をするということで、この時点ではいつまで時間がかかるか見えない状況になっていた。

当然ではあるが、結果は陰性だった。25日夜の成田行きに乗り、京都に輸送して京都競馬場で検査↓宝塚記念出走ということになったが、前走後10日ほど引き運動しかなかった影響は大きかった。宝塚記念では10番人気11着と大敗している。

10年前からもうひとつ。こちらは大レースから一気に芸能ネタという感じ。11日付の産経新聞から引用しよう。「ロック歌手の内田裕也(本名・内田雄也さん)が、東京都中央区銀座の場外馬券売り場『ウィンスズ

座』で、現金約50万円入りの財布をすり取られていたことが10日、分かった。警視庁築地署が窃盗容疑で捜査している」

「内田さんの事務所によると、この日、内田さんは予想的中が続き、財布の10万円が54万円になっていた。内田さんは『おれみたいなコワモテもすりにあうとは……』と話していたというが、翌日には万馬券を当て、46万6360円を取り戻し、落ち込んだ様子はなかったという」内田裕也の「裕」って芸名だったんだ、とか余計なところに目が行くニユースだが、最終的に馬券で稼げたのはなにより。ただ、調べてみたがどのレースを当てたのか、配当とびつたり合うものがなかった。2種類以上の賭式の足し算かもしれない。荒れたということでは、ロジックの勝ったNHKマイルCあたりが有力なのだが。

続いて20年前、平成8年の5月。

この月はエアグルーヴがオークスを勝った月なのだが、このオークスでは大斜行劇があった。5位入線、12着降着のノースサンデーである。当時既に競馬を見ていた方なら全員ご記憶のことだろう。馬の癖によるものとして鞍上の横山典弘騎手に

対する騎乗停止は1週間のみだったが、オークスの翌週といえはダービー。予定していたサクラスビードオー(皐月賞2着)への騎乗ができなくなってしまう。エアグルーヴはジグザグに走ったノースサンデーに巻き込まれなかったから勝てたわけだが、別な幸運もあった。平成8年5月24日付けの日刊スポーツから。「オークスの最有力候補エアグルーヴが23日、栗東トレンチから東京競馬場へ移動中、名神高速道路で起きた大事故に巻き込まれそうになった。午前5時すぎ貨物トラック3台による死亡事故が起きたが、エアグルーヴを乗せた馬運車は事故現場を数分前に通過しており間一髪セーフだった」

ちなみにこの時エリモニック(グリーンファーム所属の3歳馬・エレンシア)の母は少し遅い時間に発ったため事故渋滞に巻き込まれ、さらに遅く出たファイトガリバーは事故と関係ない工事渋滞に巻き込まれてそれぞれ7時間以上を要し

た。それが勝因・敗因ではないにしても、このときのエアグルーヴは運にも恵まれた印象がする。熱発で桜花賞を回避した不運を一気に取り戻したかのようであった。

この5月はNHKマイルCをタイキフォーチュンが勝った月だが、同馬の父を輸入する話がまとまりつつあった。14日付の日刊スポーツから引用しよう。「12日に行われたNHKマイルCの初代王者タイキフォーチュンの父シアトルダンサーの日本輸入が、今月中にも決定する見通しとなった。13日明らかになったもので、今年に入ってから北海道・日高地区の生産者が中心となって購買交渉が進められていた」

シアトルダンサーといえば、キーンランド・ジュライセールで当時世界最高額の1310万ドルで購入された馬だし、シアトルスルーの弟という良血馬。さらに日本でG1馬も出た……となれば、期待が高まるのも当然である。しかし、結果は意外な不振だった。タイキフォーチュン、エイシンガイモンと、重賞を勝った産駒はいずれもマル外。内国産馬としては約150頭がデビューしたが、中央重賞勝ち馬はゼロ。G1で馬券に絡んだのはサマーキャンドル(NHKマイルC3着)だけ、オーブン特別を勝

つたのもワンダーシアトルだけだった。

最後に30年前、昭和61年の5月から。この月は名種牡馬が引退を決めた月だった。5月29日のスポニチから。「大種牡馬アローエクスブレスの種付け中止が正式に決定した。これは、28日午後2時から北海道静内町・静内スタリオンステーションで開かれたシンジケート・アローエクスブレス会三役会議で決められたもの。近く総会で承認を得る(中略)今年は種付け料200万円ですべて正規の種付けを中止したものの。ただし今後は強い希望者があれば無償で種付けに応じる方向だ」

無償なら「強い希望者」も出たのではと思うが、結果的に受胎はなかった。産駒の最終世代はこの年生まれということになり、中央には17頭が登録された。そのうちいちばん走ったのは準オーブン勝ちのトウカイマーベラス。同馬の武庫川Sが産駒の中央競馬最終勝利、同年道営から札幌日経オーブンに出走したモアザンモアが産駒の中央最終出走となった。

ムカシの競馬を読む



平成18年・東京競馬場
日本ダービー
優勝馬：メイショウサムソン

© JRA